

お知らせ



博物館クラウドのご利用館、 100館に到達しました！

博物館クラウド<I.B.MUSEUM SaaS>のユーザ館数が、おかげさまで100に到達いたしました。ご契約いただいた皆様をはじめ、ご支援くださったすべての方に、あらためて感謝申し上げます。

行く先々で予算削減に伴うご苦勞をお聞きし、収蔵品管理システムをなんとか「劇的に安く」提供できないものかと企画したのが2008年、実際にサービスを開始したのは2010年末でした。100館ものミュージアムから、大切な情報を管理するシステムを委ねていただいている責任を強く自覚し、快適に、安心してお使いいただけて、それを使うとミュージアムが元気になるインフラを目指して、これからも努力を続けてまいります。



弊社Facebookページ、 好評更新継続中です

前号で解説をお知らせした弊社公式Facebookページが快調(?)です。主に、弊社スタッフが出張に出かけた館の様子や企画展、展示物のご紹介を行っておりますが、お陰様で毎日更新中。今回ご紹介した徳之島&種子島+礼文島への訪問時も、現地写真などを満載してお届けいたしました。

「いいね!」も順調にいただいておりますので、よろしければぜひご覧ください。

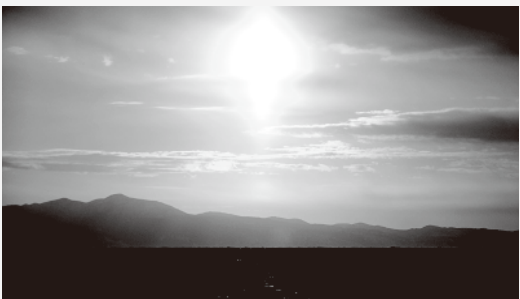


www.facebook.com/wasedasys
早稲田システム開発株式会社



新しいカバー画像はこちらです！

編・集・後・記



礼文島の夕日、「奇跡の1枚」

う〜ん、カラーでお見せできないのが残念。左の1枚は、礼文島からの帰りのフェリーから撮影した1枚です。実はこれ、「奇跡のショット」なんですよ。

どの辺が奇跡なのかと言うと、ヒントは2つ。①トリミングも角度の修正もしていない「素の」写真です②撮影場所はフェリーの上です…お分かりですか？沈む夕日がドンビシャのド真ん中に入って、なおかつ海の水面もほぼ水平。揺れる船上で撮ったとは思えないでしょう？

弊社は日本中を飛び回っていますが、日本には行く先々で、「美との対面」が必ずあります。出張のたびに、美しい国に生まれた幸せを感じつつ、それを守ること、に少しでもお役に立ちたいと、夕日に向かって心を新たにするのでした。



「博物館クラウド」を使った データ公開事例、続々！

I.B.MUSEUM SaaS は、博物館業務システムとしての役割に加え、インターネット上で収蔵品データベースを公開する機能を有していますが、全ご利用館の約25%が、すでに自館のデータベースを公開しておられます。今回ご紹介した天城町社会教育課様のように、データさえ揃えばすぐに公開に踏み切れますので、まだご存じない方はぜひ弊社のホームページで。



ミュージアムインタビューも 「100館」が視野に

少し気の早い話ですが、弊社ホームページで公開中の「ミュージアム・インタビュー」のページもまもなく「100館」に届きそうな気配となってきました。

第1回が2005年の11月ですので、足掛け10年近くかかった計算になります。この企画は、弊社システムの優位性を主張するのではなく、むしろ利用中の現場からご不満やお叱りをいただき、当時の「IT社会化の波」から取り残されつつあった博物館システムの現状を赤裸々に訴えよう…という主旨でスタートしました。

複数のスタッフが更新中のFacebookとは異なり、すべて1人の担当者が訪ねた記録。もちろん、日々の訪問先のごく一部に過ぎませんが、それでも「100」という数字には感慨深いものがあります。

お褒めをいただいたり、恥をかいたり…と紆余曲折のコンテンツ。皆様もぜひご覧ください。

www.waseda.co.jp/voice/interview/



MAPPS press

News Letter from MAPPS

2014.06

No.7

頑張れ、ミュージアム。



waseda
System Development



参加レポート

各地の学芸員研修で 博物館ITが話題に

どのミュージアムにお邪魔しても必ず感じるのは、学芸員の皆様はとても勉強熱心でいらっしゃるということ。別にお世辞ではありません。実際に各地で学芸員研修が行われていて、最近では「IT」や「デジタルアーカイブ」がテーマとなる講座が増えているのです。

とても喜ばしいことですが、個人的には冷や汗をかくこともあります。こうした場に、「講師の派遣」で弊社にお声をおかけいただくケースが増えてきたのです。

今年に入ってから、大分県博物館協議会様、九州産業大学美術館様からお招きいただき、大変僣越ながら私が講師を担当させていただきました。

大分県博物館協議会様の博物館職員研修は、別府大学の学芸員課程の授業を兼ねて実施されました。聴衆の大半が学生さんだったの

で、日ごろのプレゼンとはまったく勝手の違う90分。皆さん退屈したりしないかな…と心配でしたが、教室内には熱心にメモを取る音が響くほどの熱気。ここから、日本の博物館の明日を支える学芸員が巣立っていくでしょう。

もうひとつは、九州産業大学美術館様の大学博物館・美術館アートマネジメント人材育成事業で行われた「学芸員技術研修」です。会場は佐賀大学美術館様で、九州中北部各



大分県博物館協議会 学芸員研修(別府大学)

発行元：早稲田システム開発 株式会社
東京都新宿区新宿5丁目3番15号
TEL.03-6457-8585 FAX.03-3351-1660
www.waseda.co.jp/

CONTENTS

📷 参加レポート

博物館職員研修 別府大学
学芸員技術研修 佐賀大学美術館



ミュージアムITトピック
工夫次第で実現できる
「利用者にやさしい検索ページ」



ミュージアムIT屋さん、現場を往く！
日本列島の南と北、距離にして約2,200km！
徳之島&種子島と礼文島、同日訪問記



お知らせ
I.B.MUSEUM SaaS、100館突破！

地を回りながら、学芸員の実務に関するさまざまな技術を学ぶという主旨の場です。今回は、デジタルアーカイブの分野に触れるということで、やはり講師としてお邪魔いたしました。こちら、皆さんしっかりと表情でお聴きくださり、むしろこちらが緊張してしまいました。

こうした研修では「事例に基づく最新のミュージアムITの紹介」が求められることが多いのですが、大規模館や特殊な財源による事例が目立ちがちです。そこで、小さな規模の施設でも「ウチにもできそう」と思ってもらえるような内容を心がけております。

博物館ITが研究や議論の対象となるのは嬉しい限り。今後も輪が広がることを願っています。



大学博物館・美術館アートマネジメント人材育成事業
実行委員会様主催 学芸員技術研修(佐賀大学美術館)

ミュージアムITトピック



工夫次第で実現できる「利用者にやさしい検索ページ」

事例研究



文化財や博物館資料で使われるデータベースシステムで検索する場合、キーワードや分類を入れる方法が一般的です。これはI.B.MUSEUM SaaSの情報公開機能でも同様で、特に珍しいわけでもありません。

しかし、そう感じるのは私たちが博物館関係者だからかもしれません。一般の方々にもっと興味を持ってもらえるように、使いやすい環境を提供したい。そんな思いが伝わってくる「やさしい検索ページ」を2例ご紹介します。どちらも、I.B.MUSEUM SaaSを上手にアレンジした事例です。

事例研究 1 高津区ふるさとアーカイブ 川崎市高津区

川崎市高津区が運営する地域資料のデータベースサイト「高津区ふるさとアーカイブ」では、I.B.MUSEUM SaaS で生成した情報公開ページに、とてもわかりやすい水先案内用のカバーページが設けられています。文字通り本のカバーのように「かぶせる」ことで、誰にでも触りやすい、また多くの人の関心を引くデジタルミュージアムサイトを構築されています。

一見すると、システムの自動生成機能を使っているとは分かりません。一から開発したかのような見栄えで、いかにも使い心地が良さそうな印象がなかなか秀逸ですね。

I.B.MUSEUM SaaS による情報公開ページの検索トップ画面は、①のようなデザインとなっています。ここから先の資料情報ページがI.B.MUSEUM SaaSのサービス範囲内となりますが、入り口をより親しみやすく、使いやすいような印象で「塗り替える」と…。

point 見せ方の工夫でこんなに変わる検索ページ



① 文化財や博物館資料のデータベースでは、キーワードや分類を入力・選択して検索するのが一般的です。I.B.MUSEUM SaaSの情報公開機能でもセオリー通りの検索インターフェイスを提供していますが、一般の方々には分かりにくいかもしれません。

そこで区で加えられたのが、②のようなカバーページです。画面左上の「テーマと時代から写真を見る」のページでは、③の通り横軸に時代、縦軸にテーマが表示されていて、該当部分をクリックするだけで先に進めるようになっています。



point I.B.MUSEUM SaaSと連携すれば、検索条件の「自動入力」も可能に

見やすいメニューから、たとえば「テーマと時代から写真を見る」を選んで④の画面で「戦前・戦中」で「街道の町並み」をクリックすると、⑤の検索結果へと進みます。

ここでご注目いただきたいのは、検索条件が「テーマは街道の町並み、年代は戦前・戦中」とすでに入力・選択された状態になっていることです。もちろん、プルダウンメニューで条件を指定することもできますが、特に条件変更を望む

場合以外は、最初から表示されている方が、操作はずっと簡単です。これなら、デジタルアーカイブの検索に慣れていない方でもすんなり使いこなせることでしょう。

同様に、「地図から写真を見る」のページに進むと、「高津区全体の地図」が表示されます。この画面で閲覧したいエリアをクリックすると、該当エリアの写真一覧が表示されます。この

時も、検索条件が入った状態で表示してくれます。

たとえば、⑤の画面内の地図で「溝口」をクリックしてみると、⑥の画面が表示されます。検索結果一覧部分には、「撮影地域が溝口である写真」という検索条件が入っていることが分かります。



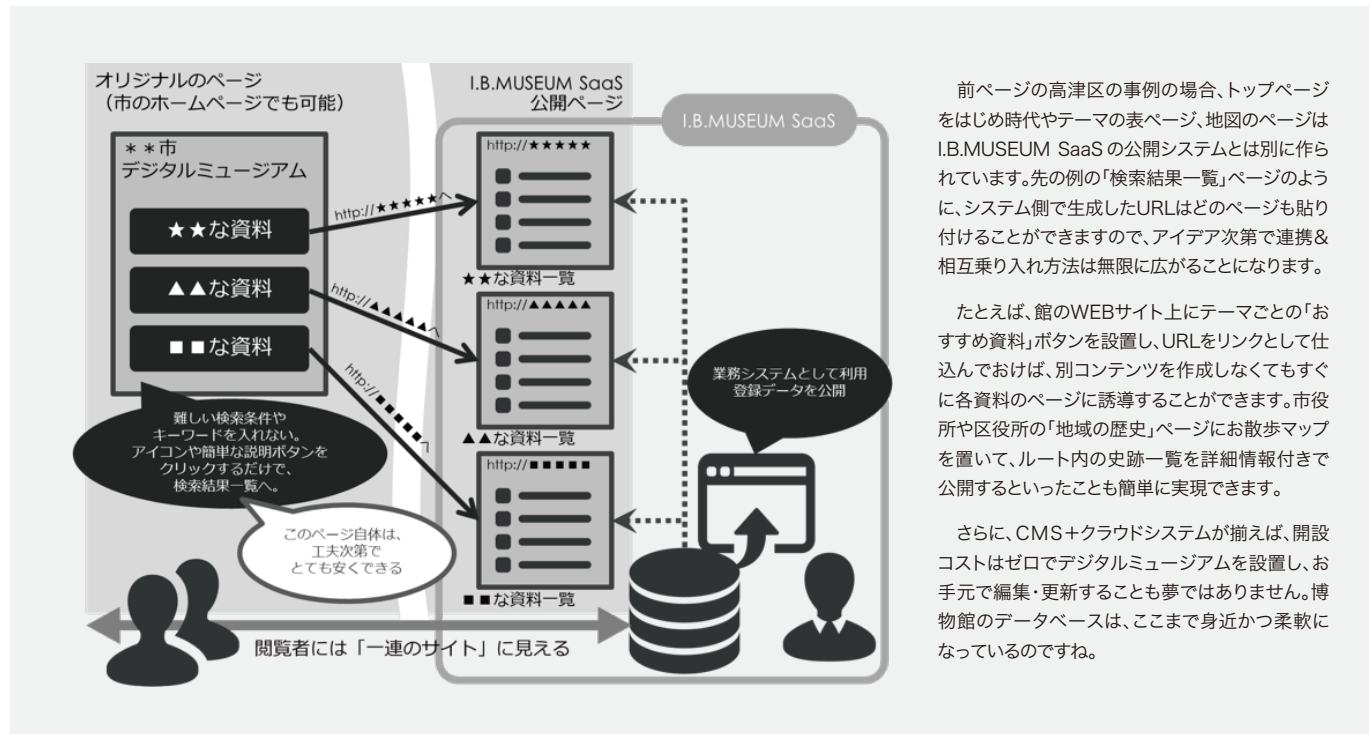
これらの「最初から入っている」ページは、実はI.B.MUSEUM SaaSの公開システムで自動生成する「個別ページのURL」を表示しているのです。このURLは「すべてのページ」に割り振られるため、「検索結果一覧ページ」も対象となります。上の例では、「撮影地域が溝口」というページを表示しているわけですね。

高津区様は、この「全ページに個別のURLが付く」という仕様に着目し、そのURLにジャンプするための「見やすいカバーを作った」のです。種を明かせばシンプルですが、とても効果的なアイデアですね。



川崎市高津区 高津区ふるさとアーカイブ
http://takatsufurusato.sakura.ne.jp

column 相互乗り入れでもっと快適になる、博物館のWebサイトと資料公開システム



前ページの高津区の事例の場合、トップページをはじめ時代やテーマの表ページ、地図のページはI.B.MUSEUM SaaSの公開システムとは別に作られています。先の例の「検索結果一覧」ページのように、システム側で生成したURLはどのページも貼り付けることができますので、アイデア次第で連携&相互乗り入れ方法は無限に広がることになります。

たとえば、館のWEBサイト上にテーマごとの「おすすめ資料」ボタンを設置し、URLをリンクとして仕込んでおけば、別コンテンツを作成しなくてもすぐに各資料のページに誘導することができます。市役所や区役所の「地域の歴史」ページにお散歩マップを置いて、ルート内の史跡一覧を詳細情報付きで公開するといったことも簡単に実現できます。

さらに、CMS+クラウドシステムが揃えば、開設コストはゼロでデジタルミュージアムを設置し、お手元で編集・更新することも夢ではありません。博物館のデータベースは、ここまで身近かつ柔軟になっているのですね。

事例研究 2 埋蔵文化財情報データベース 鹿児島県立埋蔵文化財センター ……

この3月にリニューアルした鹿児島県立埋蔵文化財センター様のデータベースでは、「簡単検索」に要注目です。

埋蔵文化財を、用途、時代、地域、文様、形、器種、地図と、7つの切り口から検索できるのですが、中でもポイントは「絵で探せる」機能を持たせている点です。



①



②



③

point 「テキスト」が一番検索しやすいとは限らない

たとえば本などで見かけた土器について調べたい場合、特に知識がなければ「どう検索してよいのか分からない」ものです。文様や形状について具体的に説明できる方は、そう多くはありません。と言うより、他人に説明されたとしても、それが自分がイメージする土器に近いのかどうか、理解できない方が大半でしょう。

それなら、目で見た通りの情報で検索すればいい、という発想を採り入れたのが、この検索サイトです。①の画面から②のような用途から調べることもできますが、左の「簡単検索」をクリックすると③の「単純にイメージに近い絵を選ばばいい」検索画面が表示されます。これならどなたでも扱うことができそうですね。

高津区の事例と同様に、こちらも、「地図で検索」というページが用意されています。①の画面で地域をクリックすると、⑤のように遺跡の詳しい地図が開きます。

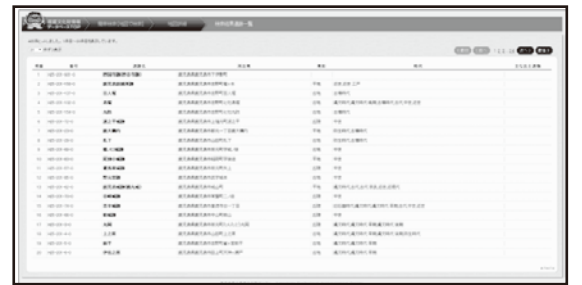
拡大・縮小が自由にできて、(モノクロでは確認しづらいですが) 遺跡のエリアが塗りつぶされています。その遺跡の規模なども分かりやすいですね。



④



⑤



⑥



⑦

もちろん、⑥の通り一覧表形式で表示することもできます。どちらの方法でも、⑦の詳細が面にたどり着くことができます。

ミュージアムは、分野によっては一般の方々には分かりにくい資料も多数あります。たとえば考古学系なら、ミュージアムに訪れる子どもたちがいかにも興味を持ちそうな遺跡や遺構、遺物でも、情報の「入り口」はとても専門的に見えてしまうものです。そんな時は、このように「最もとつきやすい形」のカバーをかけてあげれば、敷居はグンと低くなります。

一見複雑そうなミュージアムのデータベースも、工夫次第でどなたにも楽しめるものができる。そんな現状を教えてくれる好事例2例をご紹介します。ぜひサイトにアクセスの上、使ってみてください。



鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋蔵文化財情報データベース
http://www.jomon-no-mori.jp/kmai_public/

ミュージアム | T屋さん、現場を往く！

一人は南へ、一人は北へ 徳之島&種子島と礼文島、同日訪問記

2,200kmも離れた距離でも、ミュージアムT屋さんなら同じ日に行けます！ たまたまですけど。

新年度が始まった4月のある日、弊社でたまたま重なったスケジュール上の偶然に、スタッフたちが顔を見合わせました。弊社では、東京から全国への出張が珍しくありませんが、その週はスタッフHが南は九州の徳之島と種子島へ、そしてUが北は北海道の礼文島を訪ねることになっていたのです。

日本列島を南北大縦断した場合、両者の距離は何と実に約2,200kmとか。弊社は「ミュージアムがあれば、どこでも参上いたします」というのがモットーですが、それにしてもこの距離

は凄いなあと思ってしまいました。

今回の訪問は、実は博物館クラウドならではの事情がありました。近隣にシステム導入館が少なかったり、職員数が少なかったりといった困難を抱えてだったので、直接うかがってご相

談を承ることにしたわけです。

各館とも意欲たっぷり、収蔵資料のデータ整備を着実に進めておられ、弊社スタッフも感心しぎり。こうしたご奮闘ぶりをぜひ皆様にお伝えしたいと考え、「プチ特集」を組みました。



スピード公開の現場を拝見！ 徳之島・天城町社会教育課

まずは南から、徳之島・天城町社会教育課への訪問です。この日は操作説明に訪れたのですが、これも偶然、その当日にデータベースのインターネット公開を実現されました。それとかなりの「スピード公開」で、弊社スタッフもただただビックリしました。

こちらでは、もともとファイルメーカで文字データを整備しておられました。画像データは公開のために準備したもので、文字と画像のデータ同士が初めて「出会い」を果たした格好

です。データの一括登録などをサポートした弊社スタッフによれば、「元のデータがよくできていた。公開を視野に入れておられたのだろう」とのこと。I.B.MUSEUM SaaS の導入にあたって項目の見直しを行ったところ、ほとんど最低限の作業で済んだそうです。

いまは公開が果たせなくても、先々のために準備する。そんな真摯な姿勢が実現した「超スピード公開」、見習わなければと思わずにはいられませんでした。



スタッフの努力が実を結ぶ！ 種子島開発総合センター「鉄砲館」

次は種子島・西之表市、種子島開発総合センター「鉄砲館」の取り組みです。こちらは先ほどとは対照的に、もとのデータは紙台帳でした。臨時職員の方々の協力のもと、紙台帳のデジタルデータ化を行うという事業だったのですが、始めてみるといろいろと出てくるものらしく、台帳自体の検証が必要になったそうです。

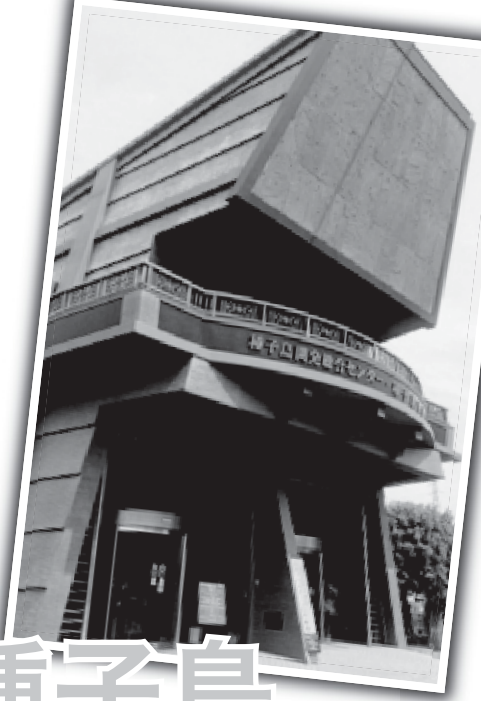
資料実物にあたって写真を撮り直し、資料分類も再検討と、全体の見直しを行うという思わぬ大事業に。入力担当の皆さんが入力業務に留まらず積極的に実物の確認作業を行うなど、労を厭わぬスタッフの頑張りによって着実



に進んでいるそうです。

この作業を通して、資料の詳細や状態などまで把握し直す機会が生まれ、今後はこれらの情報もシステムに登録して共有を図っていかれるとのこと。管理品質の向上という付帯効果も生み出しながら、公開の方も着々と準備を進めておられます。

種子島



日本の南と北で見聞きしたことをお伝えします！

礼文島 システム導入の契機は重文指定！ 礼文町教育委員会

最後は北からの報告。礼文町教育委員会の事例です。こちらはシステムを導入したばかりでこれから利用される段階ですが、きっかけとなったのは、地元の船舶遺跡の出土品が国の重要文化財に指定されたことだったそうです。

重要文化財は1,616点の考古資料で、まずはこのデータを整えることに。いずれはインターネットでデータを公開する計画もあり、意

欲的に作業を進めておられました。

訪問時には展示も見せていただきましたが、ニシン漁が盛んだった礼文島の昔の様子がわかる写真や漁具、それに、日本に移り住んだ外国語指導助手が撮影した島の美しい写真がズラリ。ゆくゆくは、これらもデータベースに登録し、公開していく方針だそうですので、個人的にもとても楽しみにしています。



●帰社してひとこと

最近、博物館でのシステム導入は急増していますが、導入前に「近くの先行館の事例を見学に行く」のが定番となってきました。弊社もよくご相談を受け、近隣館をご紹介したりしていますが、この3つの館の立地条件を考えれば、なかなか「近く」というわけにもいきません。それでも意気揚々と公開準備を進める皆さんは、どなたもお顔が輝いていました。その雰囲気が、写真から少しでも伝わればと思います。

